



全国保健師長会 ニュース

平成30年5月運営会議発行
No.1

平成30年度第1回理事会

✿日時：平成30年4月28日（土）13:00～15:00

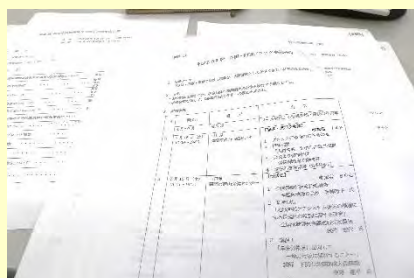
✿会場：A P 東京八重洲通り

この号の内容

✿ 平成30年度第1回理事会

✿ 40周年記念事業

キックオフ講演会



1 今年度の活動テーマ

「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開」

「一みる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来～」
として、以下の4項目を柱として活動します。

- (1) 専門性の高い公衆衛生看護活動の強化
- (2) ブロック、支部活動の強化
- (3) 各自治体における災害対策の取組の促進と被災地における保健師活動の発信
- (4) 会員数の拡大

2 最重点活動目標

- (1) 保健師活動の可視化及び質の向上
 - (2) 情報発信の強化
 - (3) 災害保健活動の推進
 - (4) 市町村の会員拡大
- の4点を最重目標としています。

3 ブロック研修会

今年度は、発会40周年の記念の年となりますので、活動テーマは、会の活動テーマと同じ「「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開」一みる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来～」でお願いします。

研修会は、7月から9月の期間に開催。内容は、会の活動説明と40周年記念事業スライドショーの上映、研究報告、そして専門性の高い公衆衛生看護活動の強化や活動テーマにつながるもので、「地域に責任をもった活動の強化に関すること」「統括的な役割を果たす保健師の配置の推進と役割の確立に関すること」「各自治体の特性に応じた保健師活動指針の作成に関すること」「保健師の現任教育の充実に向けた取り組みに関すること」の項目から1項目以上を取り上げ、講演、グループワーク、実践発表等を実施することとします。

4 第40回全国保健師長会代議員総会の開催について



平成30年11月10日（土）愛知県名古屋市で開催します。総会后、40周年の記念事業として、スライドショーの上映、歴代会長によるリレートーク、未来に向けたメッセージを予定しています。

詳細につきましては、決まり次第ホームページ、メール配信などによりお知らせいたします。

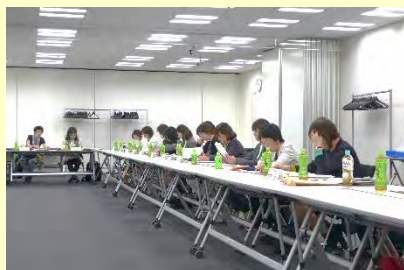
5 40周年記念事業体系

記念事業は、キックオフ講演会、代議員総会で実施するリレートーク、スライドショー上映、未来へ向けたメッセージ、そして記念誌の発行の3つを柱として実施します。

なお、スライドショーのDVDを5月中に配布します。各支部長の所属を確認後に配送を予定しておりますので、総会等でご活用ください。

6 各分会・委員会・ブロックからの報告

平成29年度の活動報告について、各分会・委員会・ブロックから報告がありました。



7 推薦委員会からの提案

平成31年度は、会長(1名)、副会長(2名)、監事(1名)、推薦委員(3名)の改選があります。6月下旬に立候補者推薦依頼の発送を予定していますので、ご協力をお願いします。

8 調査研究事業

今年度の応募は、次の通り2件ありました。

- ・「地区保健活動の推進事業」茨木市健康福祉部保健医療課
- ・「国保改革における都道府県保健師の役割－好事例の取組み－」静岡県健康福祉部

両研究ともテーマは調整中です。

調査・研究を応募する際は、事前に計画書の提出が必要になりますので、今一度「全国保健師長会における調査等活動に関する内規」を確認するように執行部からお願いがありました。（規約等・運営に関する手引きを参照）



9 平成31年度国への要望について

「平成31年度地域保健施策および保健活動の推進に関する要望書」（修正案）と、提出スケジュールについて説明がありました。

最終的に意見集約後、国と日程を調整し、5月を目途に厚生労働省へ提出する予定です。

10 その他

広報委員会から、HPアクセス状況の報告がありました。

発会 40 周年記念事業キックオフ講演会

「地域保健をめぐる国の動向」

厚生労働省健康局健康課保健指導室長 加藤典子氏

加藤室長からは（１）地方公共団体における保健師の状況（２）統括的な役割を担う保健師（以下「統括保健師」）の状況について（３）保健師の人材育成体制構築の推進 について、パワーポイント資料に沿ってお話がありました。

まず、自治体に働く常勤保健師数は、平成 29 年 34,522 人で、本庁に在籍する保健師が増加しているが、統括保健師の配置は、特別区と市町村では 50%以下との説明がありました。

次に、統括保健師には、「組織横断的な調整や交渉を行い、保健活動を総合的に推進する能力」「保健師としての専門的知識・技術について指導する能力」「組織目標等に基づき保健師の人材育成体制を整備する能力」の 3 つの能力が求められ、さらに地域全体の健康課題の明確化や優先度の判断、評価の実施を牽引できる能力も必要であると話されました。また、これらの能力を統括保健師が発揮するためには、周りの方の理解・共有と統括保健師をサポートする保健師の存在も必要なことから、体制の整備を進めていただきたいとのことでした。

最後に、保健指導室では統括保健師に関する調査を継続し、事例を提示していき、体制整備・しくみづくりを推進していただけるよう期待したいと述べられていました。



未来を創造する公衆衛生看護活動の展開～保健師に期待するもの～

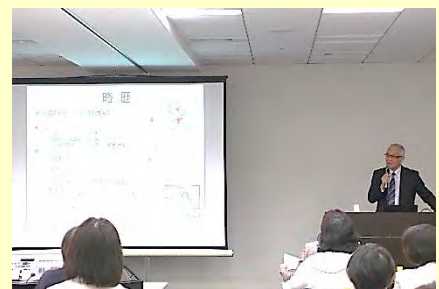
鹿児島県くらし保健福祉部医療審議監

兼鹿児島地域振興局保健福祉環境部長兼伊集院保健所長 宇田英典氏

宇田先生からは、ご自身の地方衛生行政の現場経験から、公衆衛生活動の役割、特性・有効性などに関するお話がありました。

公衆衛生は、多くの健康危機を救い回避できる医学でありアートであり、組織力や財源を活用し、専門性を発揮し、ネットワーク化によってさまざまな事業を全国規模で展開することもできるという特性・有用性がある。一方、公衆衛生的課題が尽きることはなく、公衆衛生従事者がブラッシュアップする系統的な学習をするしくみができていない。また、公衆衛生の重要性・魅力を発信できていないという課題もあると話されていました。

課題が多くある中で、責務と権限に対する信頼を確保するためには、知識・技術を行動に生かすことが重要。公衆衛生のミッションとはなにかをもう一度考える必要があるのではないかと述べられていました。また、地域で安心して生活できる社会を維持・構築していくには、地域をよく知り専門的な視点から評価する能力、そして中立的な立場で、コミュニケーション能力、パートナーシップ構築能力がある人材が役割を担えると考えている。この立場と能力を有する保健師の役割は大きいと話されていました。



☆キックオフ講演会資料

会ホームページに掲載しています。
ご覧ください

(作成：広報委員会)